



関係機関と連携し地域社会と 参画する防災教育の取り組み



和歌山県那智勝浦町立市野々小学校
校長 中地 直樹

1 学校の概要

本校は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を校区にもつ自然豊かな地域、熊野那智大社のある那智山の麓にあります。古から続く熊野信仰の詣など、観光客の絶えない地域に住む子供たちは伸び伸びと育っています。しかしながら、平成23年9月の台風12号による紀伊半島大水害により、土砂災害が発生し、在校生1名が犠牲となりました。校舎1階も激しく損壊、町内の他小学校への仮移転のあと、平成25年4月によりやく被災前の姿に戻りました。

2 市小防災の日を設定

日本全国どの学校においても、防災に関するカリキュラムが立てられています。例えば、火災、地震、津波、不審者の想定とその避難です。子供たちや職員は避難訓練を繰り返し行なうことで、実際の場面に対応できる力を養います。本校も同様です。ただし、防災に関わって特徴的なのは、土砂災害による被災経験をしていることです。被災後1年半を経て校舎等のハード面は復旧しましたが、子供も職員も心の傷跡は残ったままでした。このことに関わる取り組みは「校内追悼式」から始まりました。平成28年9月、子供たちの将来に希望がもてることをねらいとして「市小防災の日」を設定し、追悼からの内容を変更しました。以降、毎年9月に防災に関わる授業参観、講演会やワークショップ等を行なっています。令和になってからの5年間

では、第1部は授業参観、第2部として次のプログラムを実施しています。

【令和元年】避難所体験から、自分たちができることを学ぶ（避難所体験、パーティションの作成、非常食の昼食）

【令和2年】コロナ禍における避難方法・避難所運営（オンライン講演）

【令和3年】コロナ禍により中止

【令和4年】コロナ禍における避難所運営

【令和5年】①紀伊半島大水害で何が起こったのか、②防災紙芝居、③土砂災害に関する教具体験学習

一方、令和4年の防災に関わる授業参観は、次の内容でした。

1・2年：津波と地震を知ろう

3・4年：災害からの避難

5・6年：家族で考えるマイタイムライン

3 関係機関と連携

市小防災の日の実施に向けて那智勝浦町教育委員会と相談し、外部の専門家とりわけこの地域の様子を知っている方をお願いしました。本校がご指導いただいたのは、次の関係機関の方々です。

- ・日本福祉大学・野尻紀恵教授
- ・和歌山県土砂災害啓発センター
- ・那智勝浦町役場総務課防災対策室
- ・防災士・久保榮子氏（地元の被災経験者）

上記のマイタイムラインは、和歌山県土砂災害啓発センターから提供していただいたGoogleスライドです。「警戒レベル」「避難・気象情報」をもとに「私と家族の行動」

マイタイムライン (台風が近づいているとき)		名前: ○○ ○○ 家族: 父 母 姉 弟		
3~5日前	警戒レベル	避難・気象情報	私と家族の行動	
 大雨のおそれ 避難開始	1	 避難準備の開始 かかる時間 15分	(家族)の準備を確認 持ち出し品を確認	
	2 注意 (注意喚起)		父が避難開始(40分) 携帯電話の充電	ハザードマップで安全 避難経路の再確認 テレビ等でこまめに 気象情報などを確認
	3 警戒 (警戒)	高齢者等避難 ・大雨警報 ・洪水警報 ・冠水警報	母が避難開始(30分) (祖父と祖母)に 連絡 作成したマイタイム ラインを再確認	近所に避難の 呼びかけ
	4	避難指示 ・高潮警報 ・土砂災害警戒情報 ・冠水後復旧	姉弟と白分が 避難開始(0分)	
	5 災害発生	緊急安全確保 ・大規模避難	警戒レベル5の指令を待たずはいけません。	

授業参観で作成したマイタイムライン (5年女子)



避難場所での疑似体験
(本校3階音楽室)



避難グッズの紹介
(役場防災対策室)



土砂災害の仕組み
(和歌山県土砂災害啓発センター)

を想定していきます。5・6年生は野尻紀恵教授から、災害が迫っているときの避難準備や避難方法について、率先避難者の一人としてどうすればよいのかを課題提示していただいていた。一人一人がこのマイタイムラインに沿って時系列に行動の指針を書き出しました。下記の写真は、那智勝浦町役場総務課防災対策室による防災リュックの中身を説明していただいている場面。コンパクトに収納されている防災グッズを並べると、実に多種多様なものがあることが分かりました。

4 地域と参画

市小防災の日は、保護者のみの対象ではあ

りません。学校区が被災経験をしていること、災害時の避難所であることを踏まえて、地域社会に公開しています。学校が市野々区及び自主防災組織と平日頃から良好な信頼関係を構築できていることをとても有り難く思います。先述しました通り、本校は自然豊かな地域にあり、ふるさとへの想いは子供も地域社会も強く感じられます。

地域と参画する本校の防災教育は、被災経験を未来への教訓とし、私達のふるさとの良さを伝承し再発見する学習となるように今後も進めてまいります。